



長門の話題

Topics

新しい伝統の礎を築く

4月8日(金)、大津緑洋高校の開校・入学式がルネッサながとで開かれ、新入生や在校生など約1100人が出席しました。同校は県の再編整備計画に基づき大津、日置農業、水産の3つの高校が統合してできたもので、今年度の新入生216人を第1期生としてスタートしました。県内初の

キャンパス方式を採用しており、普通科、農業系学科、水産系学科の授業を統合前の3つの校舎で行います。新入生代表の普通科1年、敷木真子さんは「今までの伝統を学び、これからも新しい伝統の礎を築き、1期生の自覚と誇りを持ってまい進します」とあいさつを述べました。



▲二井関成知事から原田剛校長への校旗授与

▼校名札の除幕式の様子



歌って踊って開園を祝う

向津具保育園が開園



4月5日(火)、向津具保育園で平成23年度入園式が行われました。向津具保育園は、大浦保育園と久津保育園の統合により、開園したものです。式では、金子紀枝園長が「大浦保育園と久津保育園の2つの保育園が1つになり、向津具保育園になりました。新しい先生やお友だちの名前を覚えて

仲良くなりましょう」とあいさつをしました。これまでに2園に通っていた園児が16名、新たに入園した園児が4名の計20名の園児たちは、みんな歌や踊りを披露して、入園を祝いあっていました。市内では今日から717人の子どもたちが保育園に通うこととなります。

みすゞさんのこころを歌う

みすゞ少年少女合唱団定期演奏会



4月3日(日)、みすゞ少年少女合唱団第5回定期演奏会がルネッサながとで行われ、市内の小学生から高校生までの31人が澄んだ歌声を披露しました。公演は4つの部で構成され、第1部では金子みすゞさんの詩に曲をつけた歌の合唱が、第2部では昔のわらべ歌など

のおどりと合唱が披露されました。第3部では長門市出身のテノール歌手藤田卓也さんの独唱が、第4部では少年少女のための合唱劇「ヘンゼルとグレーテル」が上演されました。子どもたちの熱演に会場からは盛大な拍手が贈られていました。

安心・安全を売るために

県内初のJGAP認証を取得



▲左から田邊社長、榎田専務理事、谷村組合長、小田組合長

4月7日(木)、適正な栽培管理を徹底し、安心・安全な農産物を消費者に届ける生産者として、県内で初めてJGAP認証を取得した長門市三隅地区の2法人が、長門大津農協の小田保男組合長に認証取得の報告をしました。認証を取得したのは、減農薬・化学肥料不使用で「穂垂米(ほたれまい)」を生産している農事組合法人・二条窪(谷村孝組合長)と、ネギ、コマツナ等の野菜を主に生産する有限会社どんぐり(田邊英雄社長)です。

JGAPとは、農林水産省が推奨する農業生産工程管理手法の1つで、NPO法人日本GAP協会が定めた「農産物の安全」、「環境への配慮」、「生産者の安全と福祉」、「農場経営と販売管理」の4つのテーマに沿った約130の厳しい審査項目をもとに、認証が行われます。

田邊社長は「今回の認証によって真の安心・安全とは何かを実感できました」と報告。また、二条窪の榎田専務理事は「この機会に安心・安全に対する長門市全体の意識改革ができればいいと思います」と話しました。

小田組合長は「おめでとうございます。今後は安心・安全をいかに差別化できるかが大切です。これを機に販路拡大を図りたいです」とお祝いの言葉を述べました。

きれいな川で元気に育て!

三隅川で環境保全活動の一環として稚鮎を放流

4月9日(土)、三隅川で稚鮎の放流が行われました。

これは三隅地域環境パートナーシップ会議(中野博文会長)が同川の環境保全活動の一環として毎年この時期に行っているものです。三隅川河川公園「清流」をメインに合計9箇所、あわせて約

1万3千匹の鮎の稚魚が放流されました。

三隅保育園や宗頭幼稚園の園児、小学校低学年の子どもたちなど約70人が集合。体長10cm程度に育った稚魚を一斉に放流しました。子どもたちは元気に川を下る鮎の姿を楽しそうに見つめていました。

